

卒業後の感想

梁麗君

5年前に、中国国内の大学を卒業した後、他の多くの卒業生と同じように、社会に出て仕事をしました。中国国内の日系企業で通訳の仕事に従事したおかげで、多くの自分の専門外であった用語や知識に触れました。そして、仕事を行う中で、日本語レベルだけではなく、日本文化、日本経済、日本人の思想・習慣に至る多くの部分で、自分の不足を痛感しました。将来、日本の大学院に進学し、自分の様々な能力向上やたくさんの新たな経験を得ることを目標に、2016年4月から亜細亜友之会外語学院の学生として、日本留学を開始しました。

院進クラスの学生は、日常的な日本語レベルの向上以外に、競争が熾烈な大学院入試にも向き合わなければなりません。学校が4月から始まったばかりのときに、担任であった大澤先生が、授業外の時間に大学院進学に向けた面談を実施してくれました。また、大学院での専攻の選択方法、研究計画書の作成、出願書類の準備、筆記試験・面接対策など大学院試験に向けた各方面でのサポートを行ってくれました。さらに、学生たちが最新の大学院試験の情報を取得できるように、自ら多くの大学の大学院説明会に赴き、募集状況の確認を行い、学生それぞれの個性に適した大学院や専攻を見つけてきてくれました。

志望する大学院を決めた後、もっとも大変な筆記試験・面接を準備する段階に入りました。この時期は、学生だけでなく先生も同じように、プレッシャーに直面しています。特に、大学院入試を指導する大澤先生や宮原先生は、忙しい中でも時間を見つけ、私の為に過去問の解き方を教えてくれました。週末や夏休みの期間も電子メールでのやりとりという形で指導してくれました。また、早稲田大学大学院社会学研究科の問題は、最新の時事問題に至るまで様々な種類の問題が出題される傾向にあります。最新の時事について、より短期間で多くの情報を得られるように、宮原先生は指導する際に、講義の中で最新の時事問題も含めて話をしてくれました。過去問を分析したものや様々な形式の問題も取り入れつつ、授業を実施してくれました。面接指導では、大澤先生や宮原先生だけではなく、野左近校長先生、小野先生や川人先生も時間を作り、面接練習に参加してくれました。そして、私の不足している点について、指導をするとともに、不足点を補ってくれました。それらのサポートは、面接能力の強化・向上につながりました。

そのほかに、まったく中国と違った異国の地という日本で勉学に励む学生たちに、石川先生は学生をよく観察し、学業面だけではなく、生活面でも多くのサポートをしてくれました。私が大学院入試に向けて勉強しているときに、先生たちは私を鼓舞してくれました。一人で試験に向かっているのではなく、先生とともに合格を目指しているのだと、私は、そのとき一体感を感じていました。より一層、第一志望の大学院へ進学したい気持ちが高まりました。

2016年は、私にとってとても大きな人生の転換点となりました。野左近校長先生、石川先生やたくさんの先生方に会えて指導を受けたことが、私の第一志望であった早稲田大学大学院の合格に結びつきました。

亜細亜友之会外語学院から得た多くの知識・経験は、私にとって、とても大事な宝物です。